

# 木知原の今昔！

23号：5・9・29

いっぴく



## ツル性 野草 2種

**秋**の七草とは、晩夏の朝貌(アサガオ≡桔梗)～晩秋の尾花(ススキ)迄の間で、昔から暮らしと関わりが深かったり詩に詠まれたりした七種類の草花を言う。

■七草の「春は食用(平安時代)」「秋は鑑賞(奈良時代)」であるが暮らしと関わるは共通点。

## 葛 **七草に「クズ」が！**

(クズ)と言えば「屑」を想像するくらいの害草というイメージがあるが、昭和の初期までは「葛粉の原料・牛馬の飼料(うまのぼたもち)・薬用」と生活に密着した貴重な野草であったので七草に選出とのこと。納得

■クズと言えば葛餅を思い出す方も多いが、クズのルーツは大和(奈良)の国の国栖(くず)地方で生産していたでんぷん粉を国栖粉と呼び、後に漢字の「葛(クズ)」を充てたとのこと。

◆葛粉は現在高級品となったので、ジャガイモやさつまい芋で代用していることが多いようである。

◆花は大きな房状の美しい花を咲かせるが、葉で隠すように咲くので外目には余り目立たない。

◆根は掘ったことは無いがゴボウの親分!!と言った姿。



## 藪 **不思議な花**

枯らし(ヤブカラシ)は 別名「ピンボウカズラ・ヤブタオシ」とも呼ばれているつる性の植物で谷川尻の堤防に繁茂している。名前は「成長が早く藪をも枯らししてしまう」との意からの由来。

Q 葛と同時期に開花するつる性の植物であるが七草からは選外・・・?

A 藪枯らしは暮らしに何も役立たないからお呼びが掛からなかったのでしょうか・・・これも納得

## これが花？

□七草仲間にお呼びでないこともあってか知名度も低く見過ごされがちなヤブカラシであるが、花はよく見ると“これが花？”と思うほど面白い形をしているのをご存じでしょうか。



飛び入りゴメン  
家族です

◆草姿は名前ほどにコワモテでなくすっきりしています。しかも花は写真の通りで、色・形・サイズが実に多様で花期も長いので楽しませてくれますヨ！ご存じない方は必見！されたし。



藪ジラミ

◆「藪」の名はイメージが余り良くないものに使われることが多いようです。藪ジラミもくっついて嫌ですね。人の世の「藪入り」も嫁の場合はお仕着せがましいそうですヨ！「藪蛇・藪から棒」また「藪医者」は差別でパワハラか……

◆「カラス・イヌ・キツネ」の野草名もやや可哀そうな扱いである。

♥特別視はちょっとと思うが、そこは日本の和名文化の妙とでもとらえましょう。